

NO 31

[2]

〔解答〕

(A) 個人間, 集団間の地位の違いがどのように対人関係に影響を与え, 社会的関係を形成するかを考慮しなければ, 人間の社会生活を十分に理解することはできない。確かに, 地位の分化は社会によって, また時代によっても大きく異なるが, ほとんどの社会には, きちんと構成された, かなり明白な地位の序列がある。

(B) 建築家や都市計画立案者は, 未来を見据え, 新たな国際基準に基づいて, 環境にやさしい建造物を作ろうとするばかりでなく, 都市空間全体を再開発して, 限られた天然資源を最大限に活用し, 環境に及ぼす影響を減らして, 都市生活者の福祉を向上させようとしている。

[3] 〔長文総合〕

設問(1) (a) (i) (b) (i) (c) (i) (d) (i) 設問(2) (次から1つ) 羞恥心, 罪悪感, 自尊心, 絶望, 共感 など 設問(3) (i) (i) (ii) (i) (iii) (i) (iv) (i) (v) (i) 設問(4) 乳児が怒っている, と考えたこと。 設問(5) 自分のことを良い人間だと思いつけたいという欲求。 設問(6) その矛盾を克服しようとして, 幼いころの感情を修正し, また, 幼い子供が持ちえない感情が生まれたりする。 設問(7) 幼児が経験するさまざまな感情を表す言葉。

〔全訳〕

毛布にくるまれた新生児は, 誰かが毛布を取って, 部屋のもっとひんやりとした空気にその子をさらすと泣く可能性が高い。この泣き声を, 恐怖や怒りの表れとみなすべきではない。それは気温の変化に姑して生物学的にあらかじめ備わった反応だからである。さらに, その産物が脳辺縁系に影響を及ぼすような遺伝子は, 新生児ではまだ活動していない。また, ガラガラを落としてしまった生後 6 カ月の赤ん坊が泣いていることを「怒っている」と言うべきでもない。怒っているという感情は, 悲しい状態を引き起こした原因を知っていることを前提とするからだ。チャールズ=ダーウィンは, 我が子のことを日記に記していたが, 生後 7 カ月の息子が遊んでいたレモンを手から滑り落としてしまって叫び声を上げたとき, この間違いを犯した。進化論の生みの親は, 動物と幼児の生物学的連続性を想定し, 大切なものを失ったときに感じる心理状態を, 動物にも自分の幼い息子にも投影したのである。多くの現代の心理学者は, 恐怖という心理状態を, 知らない人が近づいてきて泣く生後 7 カ月の赤ん坊にも, 唾液に大量の血の塊が混じっているのに気づいた 5 歳の人間にも当てはめる。しかし, この二者の心理状態は同じではありえない。幼児と成人には, 生物学的・心理学的な深い違いがあるからだ。幼児の落胆は, 見知らぬ人のなじみのない特徴を自分の知識と結びつけることができないことから来る無意識的な反応である。一方, 大人の心理状態は, 血が自分の健康に対して意味することを判断した結果である。

感情に訴える刺激に対して幼児の行動に現れる反応は, 生物学的に備わった反応と後天的に獲得した習慣のいずれかであり, こうした反応は, 判断を伴わない内的状態の変化の兆しである。幼児の脳が構造上未発達であるということは, 罪悪感, 誇り, 絶望, 恥, 共感といった, 思考を必要とする感情が現れるために必要な認識的能力がまだ発達していないため, 生後 1 年間はそうした感情を経験することはできないということを意味している。

抱く感情の制限条件は, 乳児期を越えて及ぶ。1 歳未満の子どもは, 人との共感や恥といった感情を経験することはできないが, 一方, 3 歳児ならみな, 他人の心理状態を推測し, 人の感情や意図を意識する能力が出現するため, こうした心理状態を味わえる。脳の発達による, こうしたきわめて重要な発達上の変化によって, 行動の理由として質的に新しいもの, 特に良い人間として自己認識を保ちたいという欲求が加わることになる。

この動機は, 感情的な構成要素を持つものであり, 利他的と呼ばれる後の行動の重要な基礎となるものである。さらに, 4 歳未満の子どもは, 過去のことを思い出し, それを現在と結びつけるのが難しいと思われる。そのため, 後悔や郷愁という感情を経験できない。思春期直前の子どもでも, 側背前頭葉皮質と他の部分の接続が十分に発達していないため, 記憶を働かせるときに複数の表象を同時に操作することによって, いくらか困難を感じる。この事実が示唆しているのは, 7 歳から 10 歳の子どもは, 個人的な信念の論理的な一貫性を注意深く検討することから生まれる感情から守られているということである。対照的に, もっと年齢が上の 10 代の若者なら,

性行動や誠実さ, 神, あるいは親の英雄的な資質に関する子ども時代の前提と自分の経験との矛盾を認識した結果生まれる不確かさの影響を受けやすい。その矛盾を修正したいと思えば, 以前信じていたこと

をいくらか修正し、幼い子どもは持ち合わせていない感情を喚起することが必要になる。認識が未発達であることは、10 歳児が、ある危機に姑処する可能な限りあらゆる反応を検討し、なおかつ適応性のある行動が一つもないという結論に至ることから守られていることも意味する。その結果、10 歳児は、自殺しようという気持ちを引き起こしかねない希望のなさという感情を経験できないのである。したがって、乳児や幼い子どもが経験する心理状態にあてる語彙を新たに作る必要がある。そうした言葉はないのだ。
